運営支援委員に関して ―新米実行委員の視点から―

古市 謙次*

今年度の年次大会は、800名を上回る参加者に恵まれ、盛況のなか無事に終了いたしました。多数の興味深い講演が行われ、参加者の方々が熱心に耳を傾ける様子を各講演会場で見ることができました。一方、円滑な講演会場の運営のためにはPCのプロジェクトへの接続、照明操作、質問者へのマイク運びなど、必要な業務が種々存在します。各会場にてこれらの業務を行い、聴講者が講演に集中できるよう、奮闘した方々がいたことはすでにご存知だと思います。

プラスチック成形加工学会の年次大会には、他の学会とは異なるユニークな制度として運営支援委員制度があります。運営支援委員は、成形加工に関連する大学、あるいは企業の若手研究者/技術者が大会運営に参加し、各会場の運営や付随する業務に携わるという制度です。名称の変遷はありましたが、運営支援委員が制度化されて早や6年目となり、すっかり各方面に浸透し、年次大会の運営に欠くことのできない制度となった印象があります。

運営支援委員として参加して頂く上での最大のメリットは、同業/異業を問わず企業、あるいは大学の研究者や技術者との人的ネットワークを築く最良の機会が得られることです。また、特別講演・技術賞受賞講演・ポスターセッションの他、1日につき3件の一般講演が聴講可能とし、研究に関しても知識を深められるように配慮しました。さらに、大会参加費の免除・懇親会招待・昼食給付などの特典も例年どおり設定しました。しかし、本年度は新たな試みとして大会会期が3日間になったこともあり、すんなりと必要人員が集まったわけではありませんでした。派遣する企業側（上司）としては、3日間業務を離れることを認めるのは難しいようで、3日間を2人で分担されるケースや、2日間に限ってならば参加可能という方もいらっしゃいました。このような状況の中でも、下記のように多くの方々に運営支援委員として、年次大会の成功に対してご尽力を頂きました。紙面上ではありますが、この場をお借りして御礼を申し上げます。

杉本 貴也（日本ポリプロ）	岡田 泰史（日本ポリプロ）
青山 真己（トヨタ紡織）	藤戸 梨里（トヨタ紡織）
小堀 香奈（大阪ガス）	加藤 真理子（大阪ガス）
松谷 聡（住友化学）	宮崎 洋介（住友化学）
宮澤 太郎（住友化学）	永井 理子（住友化学）
白川 信明（東レ）	小寺 将一（東レ）
峯岸 大生（リコー）	中谷 任良（リコー）
和田 章吾（ポリプラスチックス）	石田 大（ポリプラスチックス）
戸高 葉子（ポリプラスチックス）	國本 栄起（ポリプラスチックス）
大山 武（デンソー）	宮崎 理穂（デンソー）
山田 智彦（東芝）	佐山 聡（東芝）
竹内 滋（住友重機械工業）	小倉 伸一（住友重機械工業）
岩崎 千秋（三井化学）	大山 和美（東洋製罐グループ総合研究所）
梅津 真門（ムネカタ）	

（敬称略順不同）

今回ご応募頂いた方々には、講演終了後の質疑応答で自ら質問し会場を盛り上げたり、海外からの講演者のトラブルを適切に処理したりとその活躍が懇親会で話題になるなど、非常に積極的でアクティビティーの高い方が多くいらっしゃいました。この様な方々に、運営支援委員を通してプラスチック成形加工学会をより身近なものとして感じて貰えたならば、学会の将来を考えた場合にも非常に有益であると考えられます。筆者自身も、入社から三年間、運営支援委員（旧名称：ボランティア）として大会運営を経験した後、本年度は運営支援委員担当として川口隆文委員（大阪ガス）とともに、大会実行委員を新米ながらも務めさせて頂きました。運営支援委員を経験し、学会が身近な物になっていたからこそ、実行委員としても戸惑うことが少なくなったのではないかと考えております。

運営支援委員制度は、いまや大会運営には欠かせないものとなった観があります。まだまだ、問題点はあるとは思いますが、参加者が満足できる大会とするため、ひいては学会のさらなる発展のためにも引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

* Furuichi, Kenji
東洋紡績(株)総合研究所コーポレート研究所高分子加工グループ
大津市堅田 2-1-1 (〒520-0292)
2005.8.4 受理